

原 著

ハンセン病回復者の爪変形について

佐藤 かすみ¹⁾²⁾, 佐藤 則子¹⁾,
小関 正倫¹⁾, 石井 則久³⁾

¹⁾ 国立療養所多磨全生園皮膚科

²⁾ 横浜市立大学医学部皮膚科

³⁾ 国立感染症研究所ハンセン病研究センター生体防御部

要 旨: ハンセン病自体はすでに治癒している20症例, 129指について爪変形の有無を調べ, 爪甲の変化を, 大きく色調, 形状, 性状の3者に分けて報告した.

形状の変化としては萎縮爪がもっとも多く32指だった. つぎに爪甲鉤弯が多く22指で, 厚硬爪甲も16指みとめられ, 矮爪は10指であった. 萎縮爪や矮爪は末梢神経麻痺による末梢循環障害が主にかかわっていると考えられた. 爪甲鉤弯は末梢神経麻痺指における外圧刺激が大きいと考えた. 厚硬爪甲の主な原因は爪床や爪根部の損傷によると考えられた.

色調の変化は黒変が主であり, 白変も若干あった. 黒色爪は爪下出血によるものが多かった. 厚硬爪甲と白癬とは鑑別を要した.

性状の変化として縦溝は多くみられたが, 老人性変化との鑑別が定かでなかった.

末梢骨の変形と爪変形(萎縮爪, 矮爪)はしばしば相関するが, これは同時に手術的侵襲が加わるが多いためと考えた.

Key words: bone change, leprosy, nail change